

ニセ札

シネスコ版

平口新内ニセ札141 学習塾繁昌記 一島-147 (本編トッパ追加)

高知新内ニセ札300 本編同じ

No. 465 37.12.14

新愛媛新内ニセ札128

一、「ちく三七号」を探せ!

一年目のニセ札

宇都宮・東京・名古屋

ニセ札史上最高の傑作といわれる、ち37号が日銀秋田支店で発見されたのは去年の十二月それから一年、犯人は捜査のウラをかいて矢つき早やに二十種類も製造、すでに二九九枚がみつかっています。すでに捜査当局は二万名を越える空前の人員を投入、容疑者層二十万人をシラミつぶしに洗ってきましたが、このところかんじんのニセ札がバツタリとだえ年内解決は絶望とみられています。こうした中でニセ札の有力宇都宮では毎月曜日を「ニセ札発見の日」ときめ刑事さんを先生に鑑定の講習会を用いています。かくして給料日のお投所でもそしてお茶の間でも、町中がお札とニラメッコということになります。

アイモ風土記

一、筑豊

——スクラップの断面——

筑豊、この地もかつては三百を越える炭鉱が林立、日本経済の心臓部ともてはやされてきました。

だが七十年間もつづいた繁栄は設備の近代化を遅らせ、ついには地下に百年かかっても掘りつくせない石灰を埋蔵したまま今、廃墟になろうとしています。筑豊の中心地、田川市では二十を越える炭鉱が次々に閉山、最後に残った三井田川鉱までスクラップの噂、市民も鉱夫たちも暗い表情です。炭鉱のほかには産業のない筑豊では職もなく、炭鉱夫たちは頼いた炭住で身動きもできない有様です。

去るも地獄、去らぬも地獄の筑豊、残った鉱夫たち、そして女も子供も、炭鉱のスクラップ化と運命をともしようとしているのです。

678

460

218